キャリア指導の現場から⑧

# プロとは？

東京都立晴海総合高等学校　相談部教諭・キャリアカウンセラー
千葉吉裕

6月は、教育実習の季節。多くの学校で、教員の卵が教壇に立つ。生徒との年齢の近さ、平凡な日常に出現する真新しさ、そして、一生懸命さから、たいていの実習生は生徒の人気者だ。この実習を通して、教師になりたいという思いも高まるものである。しかし、教育実習生はプロではない。教員免許の所持、採用試験の合格、その職業で得る所得だけが、教員のプロとアマチュアの境ではないと私は考えている。

医師の職業を考えれば、日々進展する科学技術の中で、新しい治療法や治療薬について絶えず学び続けなければなるまい。医師の仕事は、人の健康や命に関わり、専門的知識と技量を強く求められる。教師の仕事も、子ども達の発達と成長に関わる仕事であり、責任ある仕事である。情報化社会の進展や脳科学の解明などにともなって、教育の方法や質、内容なども適切に変えていく必要があろう。また、子ども達が生きる社会も大きく変化しているのだから、変化する社会についても知る必要がある。教師も日々学び続けなければならないことは、医師と変わらない。医師や教師に限らずあらゆる職業で、社会の進展に合わせる必要があり、その技量を鍛えていくことがプロではないだろうか。

知識社会の顕在化によって、インターネットで容易に専門的な知識を得られる時代になり、教師より生徒のほうが知識を持っていることが起こっている。さらに、知識は次々に刷新され、その量は加速度的に増殖している。このような知識社会の到来に、一教師では全く歯が立たない事態が生じている。この変化に対して、教える内容、教える方法の転換が必要だ。平成18年に文部科学省より公表された「小学校・中学校・高等学校　キャリア教育推進の手引き」の中で、キャリア教育を推進する指導者養成にあたり、「インストラクション能力（受講者に応じて効果的かつ明確に教授する能力）」「コンサルテーション能力（生徒の指導・援助に関わる担任、保護者等に対して援助する能力）」「コーディネーション能力（組織内、外の活動や関係を目的に沿って効果的に働くよう調整する能力）」の能力育成をうたっている。今、学校は開かれ、学校外の専門家と連携しながら、教育を展開していくことが望まれているのだ。時代の変化は、教師の役割も変えようとしている。教師のプロとして生きることは、決して易しいことではない。

話は変わるが、参議院選挙があった。様々な人たちが、立候補し当選して、議員になった。議員の専門性とは何なのか。多数の国民が思っていそうなことを、代表として発言することがプロの仕事なのか。政治家は、より良い社会を作ることがその使命である。社会は非常に複雑で、国民が簡単に理解できるものではない。しかも、変化していく。教育、労働、産業、経済、外交、福祉、医療、科学技術、文化、安全、税金、軍事、法、環境……、社会で起こっている事象を分類していくと、非常に多岐にわたっていることがわかる。社会のことを、一人の政治家が知っていることなどありえない。一政治家の知識や勘だけで対応したのでは、良い社会など作れるわけがない。政治家は、周りに多くの専門家を配したチームの代表であり、知恵を絞り良い社会の実現のために交渉を重ねていくことが仕事だと考える。時に、国民の考えとは異なっていたとしても、国民を説得していくことだって必要な場合だってあろう。背後にブレインの存在の見えない政治家に、国家を預けることに不安を覚える。事業仕分けで、歯切れ良く事業を潰していく場面に喝采をあげた人々がいる一方で、物知り顔で専門外のことを平気で発言した政治家を苦々しく感じた人々もきっと多いと感じている。政治家は、広いネットワークを持ち、短期間で専門的な知識を理解できるようでなければならない。グローバル化した知識社会では、堪能な語学力を持ち、内外の情報を読み解き、分析できる力も期待したいものである。

知識社会の顕在化は、あらゆる職業の専門性を変えることとなろう。そのような時代にあって、プロとして生きることは、崇高な使命感と、たゆまぬ努力が欠かせないと改めて自分に言い聞かせるのであった。